

第23回会員協議会を鎌倉～江の島にて開催

第一部 三菱プレジジョン株式会社 鎌倉事業所の見学

第二部 株式会社湘南なぎさパーク『江の島なぎさ駐車場』の見学

平成27年7月10日(金)、会員企業参加のもと、第23回会員協議会が鎌倉～江の島にて開催されました

1 三菱プレジジョン(株) 鎌倉事業所の見学

同社は、航法装置とフライトシミュレータの設計・製造会社として1962年に発足し、現在では、慣性機器・各種センサー機器・各種シミュレーションシステム・画像機器、そして電波応用機器、パーキングシステムなどオリジナリティ溢れる事業分野を拡大発展させている。

大型バスで工場敷地内に入場する際のチェック体制にまずは驚かされた。バス車内で一人ひとり、身分証明書の提示による本人確認が求められ、入館証を受け取る。防衛省とも深く関わりを持ち、我が国防衛産業の中核を担う同社ならではの厳重なチェック体制であった。もちろん、工場内における写真撮影、録音などは厳禁だ。

会議室で説明を受けた後、電車の運転席を再現した操縦シミュレーション装置が設置された部屋を見学。もともとは仮想のシミュレーション空間を利用して運転者の操縦技術の訓練や教育を安全に行うた

めのものだが、我々のような一般見学者にとっては、ゲームセンターより格段に臨場感とリアリティに溢れた運転体験装置であり、まさに電車好きにはたまらない代物だ。参加者の中から有志数名が、この試乗運転を体験することができた。

続いて、同社の駐車場システムについて、最新鋭の料金精算システムの仕組み、ナンバープレート読み取りと事前精算による車番連動システム、ICカード(電子マネー、定期カード)による入出場、商業施設などのPOSレジ連動割引システムなど、時代の最先端を行く料金精算機システムの説明を受けた。

最後に質疑応答が行われた。会員から「次世代の駐車場におけるシステム等で中心的な役割を果たしていくのは何が予想されるか？」との問いに、「ETC技術の活用や応用」という回答があった。我々が手掛ける駐車場付加価値向上を考える上で、色々なヒントが詰まった内容であった。

2 (株)湘南なぎさパーク『江の島なぎさ駐車場』の見学

神奈川県第三セクターである(株)湘南なぎさパークが管理運営されている駐車場のひとつ『江の島なぎさ駐車場』を見学した。同駐車場の建設前より、江の島は駐車場不足に起因する通年慢性的な交通渋滞に悩まされており、特に土日祝祭日のピーク時には、江の島入口から駐車場入り口までの700m弱を

進むために30分を要するという渋滞が恒常的に発生していた。このような駐車場需要の増大に対応するために、それまでの平面駐車場を重層化する計画が持ち上がった。

そこで同社は平成25年2月、江の島島内で営業している駐車場の立体化を図る「事業プロポーザル」



- ① 江の島ヨットハーバーでの概要説明
- ② 最新の料金精算システムによる入出庫を見学
- ③ 湘南港を背景に2階部分を見学する
- ④ 平日にもかかわらず、1階部分はほぼ満車状態
- ⑤ 2020年東京オリンピック・セーリング会場が江の島に決定

を実施するに至り、その結果実現したのが『江の島なぎさ駐車場』である。公募の結果、当工業会の会員企業が本立体化計画事業を落札、受注することとなり、他の当工業会会員にとっても繋がりの深い駐車場であると同時に、思い入れのある事業案件であったと言える。

湘南港に面した「江の島ヨットハーバー」において、同社総務部事業課の田中氏より本駐車場の建築に至る背景、同駐車場の運営状況など概略について説明を受けた後、隣接する駐車場へ移動。各会員は思い思いに1層2段の自走式駐車場を視察した。見学当日は好天にも恵まれ、海の日差しと潮風に汗ばみながらも駐車場の細部に亘り観察する会員の姿が目立った。

2階建て、駐車可能台数は最大327台、料金精算機には、第一部で見学した三菱プレジジョン(株)による最新鋭のシステムが導入されていた。江の島に入ってすぐという立地条件も手伝い、1階部分は平

日にも拘らずほぼ満車状態で、「稼働率は良好」という説明を実感させるものとなった。

また、2020年東京オリンピックのセーリング競技開催地が江の島に決定した。これにより、当地における今後の駐車場整備需要の一層の高まりにも期待が持てるのではないだろうか。

今回の会員協議会では、多くの自走式駐車場や立体駐車場で設置・運用されている料金精算機や車路管制システムを製造するメーカー企業を直接訪問することができた。また、それらの最新機器を実際に活用し、地域における渋滞の緩和に対し大きな役割を担っている自走式駐車場を実際に見学することもできた。この有益な機会を通じて、一般の方々に広く認知される自走式駐車場とは何か、求められている付加価値は何なのかといったことを考える際、大きなヒントを得たといえることができるだろう。